



静岡県教育委員会
教育広報紙

Eジャーナルしずおか

自立し、互いに関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

令和2年(2020年)
6月5日
金曜日
第224号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3674 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

生徒の「学び」が変わる!



アンケートや
課題提出はスマホで
サクサク回答!!

いつでも見たいときに
動画が見られる!



Google Classroom
PowerPoint資料で授業
(掛川西高校)

普通の授業スタイルを
そのまま撮影



Google Classroom
iPadで授業動画撮影!
(掛川西高校)

学校全体がデジタル化!
授業動画や課題の配信を
ネットで実施!

Classroom

11HR	12HR	13HR
国語総合	数学I	コミュ英I
課題研究	電子計測制御	実習
職員室		

Google Classroom

Zoom

Google form

いまこそ ICT教育!

詳細は3面を
チェック!

~いつでも・どこでも「つながる」学び~



英語を読み上げながら
問題を解き解説

Zoom
パソコン越しの英語授業
(静岡高校)



チャット機能で
健康観察(体温測定)!

Zoom
朝のショートホームルーム!
(沼津工業高校)

Google form

アンケート

学年
 1年
 2年
 3年

教科名
 国語

〇〇についての感想
 ~が良かった。

みなさんが、
ICT教育の未来を想像し、
活用してワクワクを
体験してください!



学校の「業務」が変わる!



【教育政策課】

実践NOTE 445

ダイアログ・イン・ザ・ダーク(以下DID)とは、「暗闇の中の対話」

東部特別支援学校 副校長 山崎 久美子

ダイアログ・イン・ザ・ダーク(以下DID)とは、「暗闇の中の対話」

前任校の沼津視覚特別支援学校では、障害の有無に関わらず多様性を認め合う「共生・共育」の推進を目的にDIDを行いました。

DIDは、県教育委員会、DIDジャパンソサエティの協力で、1月20日から22日までの3日間、地域の方、教職員、そして本校児童生徒、保護者と交流校である沼津市立第五小学校4学年児童と保護者、約220人が体験を行いました。



スタッフとともに

小学校との学校間交流

小学部では、沼津市立第五小学校と学校間交流を行っています。その歴史は長く、小学校の保護



アテンドの自己紹介

体験の成果

体験後、児童からは「障害があっても同じように楽しめる」「体に不自由があってもそれ以外は変わらない。対話をするのが大切」「障害がある人を助けるだけでなく、助け合うことも大切」「これから障害のある人を助けていきたい」などの感想があり、DID体験を通じて障害のある方への理解が進んだだけでなく、対等な人であることに気づきました。

体験後の交流

4年生の全盲児童のために交流校の児童がゲームを工夫し交流を行いました。また、本校の弱視の教員が駅まで白杖を使って歩いている姿を見た児童が、声をかけ駅まで手を引く様子が見られました。



白杖体験

暗闇の中の対話 対等な関わりへ

今回のDID体験は、学校間交流で培ってきた障害についての知識と体験を通して得た理解の段階から、より自然にお互いを理解し、助け合える共生社会の一步となるよう計画・運営を行いました。学校運営協議会でも意見をいただき参考にしていきました。



暗闇から出てくる、自然な手引き

暗闇体験では、照度0の完全な暗闇になった会議室で「ジャンケン列車」や「ジェンカ」「爆弾ゲーム」を行いました。暗闇に入る瞬間、大きな声をあげていた児童も時間がたつにつれ、笑い声や「こちだよ」と声を掛ける様子がありました。また、はじめは視覚障害を有するアテンドに戸惑いを見せていた児童も暗闇から出てきたときには、アテンドを自然に手引きする姿がどのグループにも見られました。



DID体験後の交流

実践NOTE 446

特別支援学校に おけるがん教育

病気の予防と共生を目指して

御殿場特別支援学校 養護教諭 中村 幸世

卒業後を見越して

昨年度まで勤務した愛鷹分校での実践報告をします。愛鷹分校は、就業意欲のある比較的知的障害の軽い生徒が通う学校です。自分の進路を主体的に選択することと同様、主体的に病気を回避する行動をとることができる生徒の育成を目指して昨年度、がん教育を実施しました。



グループワーク

もつと知りたい！を 引き出すために

がんに対する基礎知識がさまざまな生徒の実態から、誰もが興味を持つことのできる授業づくりに苦労しました。インパクトを大事に、図表は大きく、写真を多く、声の強弱をつけ、引き付ける授業を心掛けました。

意識の教育を目指す

健康を考える一つの手立てとして、がん教育を取り上げ、5回にわたり授業を進めていきました。生徒から親へ検診を勧めるなど、知識だけでなく意識の教育も行っていきたいと考えました。

理解度の確認

生徒がどの程度がんに知っているの知識があるかを知るため、グループワークにより意見を出し合いました。「怖い」「痛そう」といった、怖いイメージを持つ生徒が



ひきつける授業を目指して

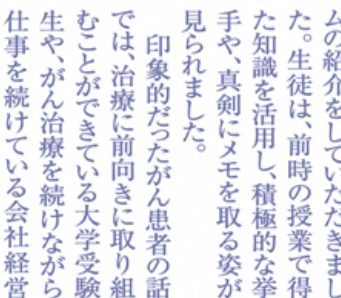
保健体育科と 連携したがん教育

保健体育科教員の協力を得て、保健の授業の中で実践をしました。

他教科の教員も空き時間を利用して授業に参加し、全職員の協力があった実践を行うことができました。

実話を持っている力は 大きい!!

がん性疼痛看護認定看護師の方に外部講師を依頼して、基礎知識や緩和ケアチームの紹介をしていただきました。生徒は、前時の授業で得た知識を活用し、積極的な挙手や、真剣にメモを取る姿が見られました。



印象的だったがん患者の話では、治療に前向きに取り組むことができていた大学受験生や、がん治療を続けながら仕事を続けている会社経営者の実話を聞きました。生徒の感想から「自分が将来がんになった時の対処法が分かった」「今まで、がんは怖いイメージしかなかったが、治療しながら普段通りの生活をしていると聞いて、イメージが変わった」と、少しずつがんを身近なものとして捉えることができています。

「命に関する大切な話をします」という切り出しに立ち、全校生徒が真剣に話を聞く姿勢を感じることができました。



外部講師による実話

どう生きていく？

最終回は、これからのような生活をしていくべきか、自分なりに考える授業にしました。生徒から「社会人になっても運動を続けたい」「野菜を使う料理を作りたい」「家族がたばこやお酒を飲みすぎているら、減らすように言いたい」「親に検診に行つた方がいいよ」と伝える」と家族のことを考えた発言も出ました。

共感的理解を深め、実践につなげる意識が感じられたことは、私の目指す生徒像に近づくことができたと感じました。

家庭を巻き込んだ 健康教育

家族ががんについて学んだことを伝える、という宿題を出しました。家庭から「〇〇から(生徒名)がんにならない為に大切なことや、今自分ができることなど、色々な話を聞きました。コメントをいただきました」と健康教育は、授業内容を見える化して生徒が主体的に考えること、家族で考える機会を設け、家族と一緒に取り組むことが大切であることを実感しました。



生徒への宿題

生徒と共に成長して いきたい

今後も改善を繰り返して、よりよいがん教育を実践していきたい。また、目指す生徒像と、そのための手立てを常に考えて、生徒の実態に合わせた健康教育を進めていきたい。そして、多方面からのアプローチができる教員を目指し、生徒と共に日々成長していきたいと思

地域学校協働活動で、学校も地域も笑顔になります ~地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える~

地域学校協働活動とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関などの幅広い地域住民などの参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

<p>子どもたちへの効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民と交流することにより、コミュニケーション能力が向上します。 さまざまな体験や経験の場が増え、地域への理解・関心が高まります。 	<p>学校への効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員が授業や生徒指導などに、より力を注ぐことができます。 学校の教育水準の向上に効果があると考えられています。 	<p>地域への効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の教育力が向上し、地域の活性化につながります。 地域住民の生きがいづくりや自己実現につながります。
---	---	---

学校 ↔ 連携 ↔ 協働 ↔ 地域の方

<p>協働活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域人材育成、郷土学習、協働防災訓練、学習・部活動等支援、花壇整備、登下校の見回り等 	<p>放課後等の学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後、土曜日、休日における学習、スポーツ活動等 	<p>体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会奉仕体験活動、自然体験活動、職場体験活動等
---	--	--

★地域学校協働活動は、平成29年3月の社会教育法の改正により、法律に位置付けられました。 【社会教育課】

健康診断が実施されています。職員には健康診断の受診が義務付けられていますので子どもたちの学びを支えるためにも、年に1度は自分の体をチェックしましょう。

Google Classroom

いつでも・どこでも見られる!

パソコン・タブレット
スマホから

Classroom

動画配信、課題の提示・回収やグループ内での連絡等の共有

ホームルーム、授業集団、学年など、実際の学校生活に準じたグループのフォルダをインターネット上に作成することができます。

職員室フォルダを作成すれば在宅勤務や出張先でも情報共有ができ、業務改善にもなります。



1人1アカウント



グループへの招待又はグループコードの通知

授業動画のつくりかた

iPad

①画面収録機能を使い、iPad上の様々なアプリを活用しながら、音声による説明を収録できます。

[iPad画面収録](#) [検索Q](#)

②ビデオ機能で普段の授業スタイルのまま撮影します。準備等は比較的簡単です。

PowerPoint

ナレーションの録音や、webカメラで自分の顔を映しながら録画することができます。動画ファイルとして保存できます。

[パワーポイント 動画](#) [検索Q](#)

Zoom

レコーディング機能で、授業の撮影や画面の録画など、自分の顔を映して動画を作成できます。比較的容量の小さい動画が撮影できます。

[Zoomレコーディング機能](#) [検索Q](#)

ポイント

- ・動画作成は教職員同士の協働により作成 →コミュニケーションがアップ!
- ・生徒のスマホ端末等を配慮して、画質や文字の大きさに注意!
- ・先生の顔が見えるとうれしいな!



Zoom

同時双方向によるやりとりが可能に!

緊急時の対応に有効



- ・他校や小中高特、大学との交流
- ・オンラインセミナーも実現可能

同時双方向授業

映像+音声のやりとりができます。画面共有機能で教師端末の画面が共有でき、様々なアプリケーションを利用して解説ができます。参加者が自由に書き込めるチャットやホワイトボード機能があります。

朝SHR

生徒1人1人の顔を確認することができます。先生からの連絡やチャットによる健康観察などができます。複数人の場合、チャットでの発言が読み取りやすいです。

ポイント

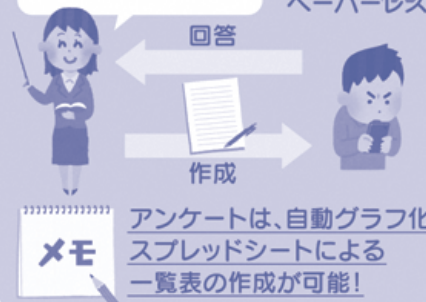
Google form

アンケート作成・回答・集計が簡単にできる!

学校の業務の効率化

アンケートは、生徒がスマホ等でサクサク回答! 集計らくちん!

ペーパーレス



アンケートは、ひな型に質問項目や回答方法を設定するだけで、簡単に作成できます。回答方法は、記述式・選択式・プルダウンなどから選択でき、ファイルや画像の添付もできます。これまで紙で配布していた生徒・職員・保護者などへ向けたアンケートが電子化することで、回答や集計の簡略化になります。

ポイント

【教育政策課】

令和2年度版「静岡県人権教育の手引き」を作成・配付しました!

県教育委員会では、各学校で人権教育を推進していくために、人権教育の手引きを作成し、県内の小中学校・高等学校・特別支援学校に配布しました。授業での実践や校内研修に、ぜひ積極的にご活用ください。

● 本年度版の特徴

■人権教育の体系的・系統的な推進を図るために必要となる「年間指導計画」を作成する際の留意点、作成例を掲載。

■さまざまな人権課題に対応した10本の学習指導案を掲載。
※ワークシートはHPからダウンロードすることも可能です。



令和2年度 静岡県人権教育の手引き
想像しよう 共感しよう
— 実践学習編 気付きから行動へ —



今年度のテーマは…

- 「子ども」「高齢者」「障害者」「外国人」「性の多様性」「インターネット」「ハンセン病」「セクシャルハラスメント」等

■人権教育をめぐる近年のトピックを掲載。

たとえば…

- 「ハンセン病に関する総理談話」「やさしい日本語」「拉致問題」「オリンピック・パラリンピック」「アイヌ新法」「改正児童虐待防止法」等

■さまざまな方からの「教職員の日頃の言動について、人権の視点から定期的に見直したい」というご要望にお応えし、チェックシートを掲載。

■研修などに活用できる、DVDや書籍の貸出もご案内しています。

■関係機関、窓口リストを掲載。早見として活用いただけます。



大切なのは“気づく力”

TEL 054-221-3133

【教育政策課人権教育推進室】

～6月は児童手当現況確認の時期です～



重要なお知らせ

1 児童手当を受給している方は6月中に現況届の提出が必要です

児童手当を受給している方は、毎年6月中に「現況届」を提出しなければなりません。この届は、毎年6月1日における状況を記載し、児童手当(特例給付)を引き続き受ける要件があるかどうかを確認するためのものです。各所属の指示に従って、期限までに必要書類の提出をお願いします。

2 任期付職員及び臨時的任用職員の児童手当は「県(各所属)」からの支給です

令和2年度から、新任用制度の導入により任期付職員及び臨時的任用職員の児童手当は「市町払い」から「県(各所属)払い」へと変更になりました。切り替えが済んでいない方は、お住いの市町へ「受給事由消滅届」を、各所属へ「児童手当・特例給付認定請求書」を速やかに提出してください。

お問い合わせは、教育厚生課 集中総務班へ

TEL 054-221-3112

【教育厚生課】

総合教育センター **「気付くこと」から始まる教育** ~特別支援学校定期訪問への高等学校支援課の同行~

特別支援学校の一人一人の子どもの学びを丁寧に把握し、適切に指導することを学ぶことで、高等学校の先生方にアドバイスをするためのヒントを得ることができました。

作業学習で作られた製品の販売活動を、商業教育とつなげることで、作業学習の質の向上が狙えそうです。



高等学校支援課指導主事

子どもが取り組みたくなる魅力的な課題を設定することは、特別支援学校でも高等学校でも重要なことであると改めて認識しました。

特別支援学校の先生方が、子どもに寄り添いながら、子どもが自ら決断したり行動したりすることを大事にする意図的な支援が印象的でした。また、将来の生活を見据えた指導も参考になりました。

昨年度、特別支援学校から学校等支援研修の要請を受け、高等学校支援課の指導主事が特別支援学校に訪問し、専門教科の知識を生かした助言を行いました。特別支援学校の先生方が、新たな視点からの「気づき」を得ることで、特別支援学校における教育活動の幅を広げるのみならず、同行した高等学校支援課指導主事の特別支援教育に対する理解を広げる機会となりました。総合教育センターは課を横断して学校を支援します。



私の学校紹介します Eジャーナルでは、皆さまの学校についての取り組みを募集しています。ぜひEジャーナルを学校のPRにご活用ください! 問 教育政策課 TEL 054(221)3674

まごころあふれる中央小

吉田町立中央小学校では「まごころあいさつ」「まごころそうじ」「まごころあるき」という「まごころ3活動」に取り組んでいます。

「まごころあいさつ」は、相手を意識し、いつでも、どこでも、誰にでも、自ら進んで気持ちのよいあいさつをすることです。そのため、本校の子どもたちは、朝夕のあいさつはもちろん、ありがとうやごめんなさいなども大きな声で言うことができます。それだけでなく、横断歩道で止まってくれた車の運転手さんに向かってもお会釈をしています。



止まってくれた車に会釈をする子どもたち

「まごころそうじ」は、「黙って、一生懸命、時間いっぱい」を意識して、学校をみんなできれいにすることです。本校は、全校児童が653人ですが、掃除の時間は、本当に静かで、話し声が聞こえません。「まごころそうじ」は、まごころ3活動の中でも、「じまん」と言えるほどのものです。

「まごころあるき」は、周りの人のことを思いやり、みんなが安全に過ごせるように右側を歩くことです。「まごころあるき」は、単に静かに歩くということではなく、周りへの気遣いをするを大切にしています。そのため、本校の子どもたちは、廊下で出会ったお客様に会釈を自然にし、歓迎の気持ちを表しています。このような子どもがいっぱいの吉田町立中央小学校には、みんなが気持ちよく生活するためには、どうしたらよいか考え、行動する「まごころ」がいっぱいあふれています。



集会を行い「まごころそうじ」の大切さを伝える子どもたち

静岡県立工科短期大学校 令和3年4月開校



グローバル化や科学技術の進展など、社会経済環境の変化に対応できる技術人材を育成するため、沼津技術専門校及び清水技術専門校の教育内容を高度化し、静岡県立工科短期大学校を開校します。

静岡県立工科短期大学校		2年制	授業料等
【沼津キャンパス】 (現:沼津技術専門校)	【静岡キャンパス】 (現:清水技術専門校)		入校料: 県内 84,600円 県外 219,900円 授業料: 年額 234,600円 入校検定料: 18,000円 ※別途、教科書・作業服・資格試験受験などの諸経費が必要です。
●機械・生産技術科(20人)	●機械・制御技術科(30人)		
●電子技術科(20人)	●電気技術科(20人)		
●情報技術科(20人)	●建築設備科(20人)		

問 県経済産業部職業能力開発課 TEL 054(221)2821 Eメール syokunow@pref.shizuoka.lg.jp
HP http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-230/tandai/about_scot.html

学び続ける教職員へ ~参加者募集中~

第24回伊豆文学賞 作品募集

文学の地として名高い伊豆をはじめ、県内の様々な魅力を、文学(書くこと、読むこと)を通じて全国に発信するため、県内の自然や地名、行事、人物、歴史などを題材や素材にした新たな文学作品を募集します。

- 募集期間 令和2年5月1日(金)~10月1日(木) ※掌篇部門は9月17日(木)まで
- 応募資格 どなたでも応募できます。
- 募集内容 ①小説・随筆・紀行文部門:伊豆をはじめとする県内各地の自然、地名、行事、人物、歴史などを題材テーマにした小説、随筆、紀行文。
②掌篇部門:伊豆をはじめとする静岡県内各地の自然、地名、人物、歴史などを素材(パーツ)に取り入れた短編作品。ジャンル不問。
例:家族や旅の思い出、感銘を受けた人や出来事、忘れられない風景や歴史 など
- 応募規定 ①:小説:30枚~80枚程度、随筆、紀行文:20枚~40枚程度
②:3枚~5枚以内
※400字詰め原稿用紙換算枚数
- 賞 ①:最優秀賞1編(表彰状、賞金100万円)、優秀賞1編(表彰状、賞金20万円)、佳作2編(表彰状、賞金5万円)
②:最優秀賞1編(表彰状、賞金5万円)、優秀賞5編(表彰状、賞金1万円)
- 審査員 ①三木卓(作家)、村松友視(作家)、嵐山光三郎(作家)、太田治子(作家)
②村松友視(作家)、諸田玲子(作家)、中村直美(「旅の手帖」元編集長)
- 費用 無料
- 応募・問い合わせ先 伊豆文学フェスティバル実行委員会事務局(静岡県文化政策課)
TEL 054-221-3109 HP http://www.izufes.net/izuFes

物づくりから物語づくりへ
デザインの力で静岡の発展に貢献する。

Design Works of Pres

Album Web Site
Logo Mark Photograph
Card Illustration
Pamphlet Character
Booklet Package
Catalog Publication
Flyer Data Remake
Poster Branding

CREATIVE & COMMUNICATION SYSTEMS
PRES
【株式会社プレス】
〒422-8034 静岡市駿河区高松3044-18
TEL.054-238-7322 FAX.054-238-7321
https://d-pres.com info@d-pres.com